

2019年度スポーツ庁委託事業

「障害者スポーツ推進プロジェクト（地域の課題に対応した
障害者スポーツの実施環境の整備事業）」成果報告書

2020年4月
札幌市

- 肢体不自由のある子どもが、-----（参加できるのは子どもだけ！）
- 初心者でも気軽に楽しみながら、-----（もちろん初心者大歓迎！）
- さまざまな競技について、-----（チャレンジするのは競技スポーツ、しかもたくさん！）
- 定期的に、-----（1回きりの体験会じゃない！）
- 指導が受けられる、-----（そして、上手くなれる！）

今はちょっと珍しい、でも当然あるべき

障がい者スポーツクラブ「パラスポーツクラブ-SAPPORO」を運営する

障がい者スポーツクラブの運営を通じ・・・

○スポーツを継続して楽しめる拠点づくり ⇒ **裾野拡大**

○競技スポーツの体験機会の充実＋専門的な指導 ⇒ **競技力向上**

を目指す

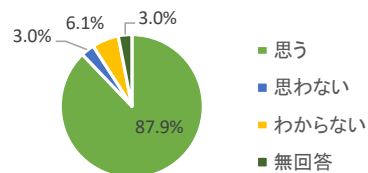
現状

市内障がい者スポーツサークル：若年層（特に子ども）の参加少 → 将来的なスポーツ実施率の低下

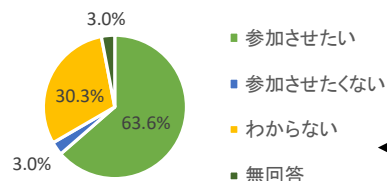
スポーツ活動に関する調査（肢体不自由のある児童・生徒の保護者対象・2018年9月実施）

保護者：子にスポーツを行ってほしい

自分の子にスポーツを行ってほしいと思うか

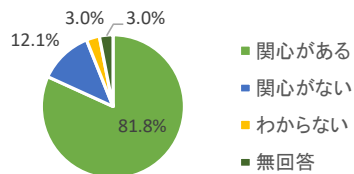


身体障がいのある子どもが集まって運動を行う機会があれば参加させたいか



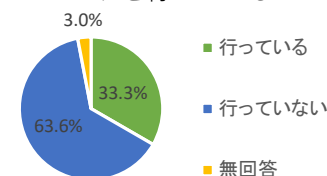
子：スポーツに関心がある

自分の子はスポーツに関心があるか

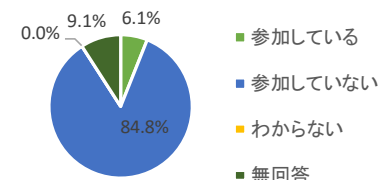


実態：スポーツを行っている子は少ない

自分の子が継続的にスポーツを行っているか



自分の子が学校の運動系部活動等に参加しているか



ニーズと実態のギャップが浮き彫りに

ギャップが生まれる要因（考察）

- 余暇にスポーツを行うという習慣・選択肢・発想が子どもや保護者に無い
 - ・スポーツを「気軽に楽しめるもの」、「習えるもの」として捉えていない
- 子どもを対象とした障がい者スポーツサークルが身近に無い
 - ・いわゆる「スポーツ少年団」に相当するものが無い
 - ・大人主体で活動するサークルには参加しづらい
- そもそも自分が夢中になれる競技が何かわからない
 - ・様々な障がい者スポーツを時間をかけて体験できる場が少ない
 - ・体験により興味を持ったとしても、継続的に活動する場や指導を受けられる場が無い

⇒ ギャップを埋め、子どもたちが存分にスポーツを楽しめる環境をつくる

一般社団法人HOKKAIDO ADAPTIVE SPORTS

「北海道に障がい者スポーツの拠点をつくること」を目的に設立

○チーム活動

○スクール活動

○社会活動

を事業の柱とし、障がい者スポーツの普及促進に取り組んでいる



HOKKAIDO
ADAPTIVE SPORTS

法人代表：齊藤 雄大 氏

元日本車椅子ソフトボール日本代表監督（2015-16）

北海道メディカルスポーツ専門学校専任教員（2016～）

ハイテクアスリートクラブ アドバイザー（2017～）

2018年にアリゾナ大学とテキサス大学で障がい者スポーツについて学び、イベント開催やジュニア育成など、北海道の障がい者スポーツの環境整備に精力的に取り組んでいる傍ら、自身も選手として活動している。

実行委員会 = **札幌市障がい者スポーツ普及促進協議会**



障がい者スポーツの普及促進と関係者の連携強化を図るための常設協議会

○札幌市主催事業について実効性向上に向けた協議

○市内障がい者スポーツ関係情報の共有 を行う。

構成団体

【札幌市】 スポーツ局、保健福祉局、教育委員会

【障がい者スポーツ団体】 札幌市障がい者スポーツ協会、札幌市障がい者スポーツ指導者協議会

【スポーツ団体】 札幌市体育協会、札幌市スポーツ推進委員会、札幌市体育振興会

【公共スポーツ施設管理者】 さっぽろ健康スポーツ財団

【教育機関】 北海道教育大学

【民間企業】 北海道新聞社、北洋銀行、北海道銀行

実行委員会（札幌市障がい者スポーツ普及促進協議会）開催実績

回	開催期日	場所	議題
第1回	令和元年6月3日（月）	敷島北一条ビル7階 会議室	○障がい者スポーツクラブの設立について ○札幌市の今年度事業（案）について ○その他
第2回	令和元年11月6日（水）	敷島北一条ビル7階 会議室	○令和元年度事業について（中間報告） ※「 <u>パラスポーツクラブ-SAPPORO</u> 」の中間報告を含む。 ○障がいのある方の運動に関するアンケートについて ○その他
第3回	令和2年3月25日（水）	新型コロナウイルス 感染症の拡大の影響 により、書面会議	○令和元年度事業について（期末報告） ※「 <u>パラスポーツクラブ-SAPPORO</u> 」の期末報告を含む。 ○障がいのある方の運動に関するアンケート調査について （報告）

※ 他の札幌市主催事業とともに本事業に係る協議を実施。

事業期間

2019年7月13日（土）～2020年2月24日（月・祝）

※ 月3～4回、土曜14：00～16：00の時間帯を中心に活動（計32回）

活動場所

札幌みなみの杜高等支援学校体育館 （障がい者スポーツ専用の学校開放実施校）



学校開放の枠組を活用して活動場所を確保

参加登録者

20名（4～18歳） ※ 札幌市外6名を含む。

競技用具

札幌市の備品を優先的に使用 ※ 競技用車いす（20台）、シットスキー（10台）、テニスラケットなど

1回の活動の流れ

①



②



③



⑥



⑤

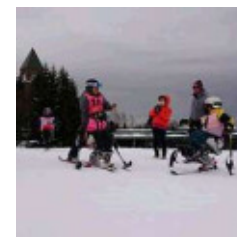


④

- ① 準備運動
- ② ウォームアップゲーム
※車いす鬼ごっこなど
- ③ 団体戦型レクリエーションゲーム
※ミニパイロンを立てるvs倒すなど
- ④ 団体戦型戦略的ゲーム
※団体戦略と個人の役割を子ども
たち自身が決めて実行する
- ⑤ 競技スポーツ
- ⑥ 後片付け・掃除

今年度実施した競技スポーツ

車いすソフトボール、車いすバスケットボール、車いすテニス、車いすハンドボール
車いすバドミントン、短距離走、風船バレー、シットスキー ほか



サマーキャンプ

令和元年10月26日（土）～27日（日）

※ 北海道浦河町で実施

- 車いすソフトボール
- 車いすバスケットボール
- パラ馬術入門（馬とのふれあい）
- パラリンピアン・現地スポーツ団体との交流

ウィンターキャンプ

令和2年2月22日（土）～24日（月・祝）

※ 市内公営スキー場で実施

- シットスキー
- バイスキー
- パラリンピアンとの交流

- スポーツクラブの存在にコーチングスキルを持つ人材が加わることで、クラブが単なる「仕組み」ではなく「スポーツ活動の場」として機能した。

【指導方法】

- 「どう感じたか、どう考えたか、他にどんな考え方があるか」を言語化させ、受容・承認する。
- チャレンジを積極的に褒め、新たな可能性を引き出す。
- 上達するためのヒントを与えながら工夫を促し、自主性を伸ばす。
- レクリエーションゲームの中に「競技スポーツに必要なスキルの養成」や「スポーツに要する思考の訓練」を溶け込ませる。
- 「年齢・競技能力が異なる仲間全てが楽しめるためにはどうすればよいか」を意識させ、仲間同士で適切な役割分担について考えさせる。
- 各自の行動について自ら決定するチャンスを積極的に設け、自立を促す。

- スポーツクラブが「スポーツ活動の場」となったことで、これを取り巻く人々が繋がる「コミュニティ」が形成された。

スポーツ活動の場が生まれたことにより・・・

○スポーツへの関心が高まり、習慣化された

- ・スポーツに関心が無かった子が、スポーツ中継の視聴を家族に勧めるようになった
- ・車いすマラソンなどのスポーツイベントへ積極的に参加し始めた

○競技知識に加え「考える力」や「意欲」を引き出す指導者と出会えた

- ・上達への意欲や自分の役割に対する意識が強まった
- ・「チームのためにどうすれば貢献できるか」を考えて行動が取れるようになった

コミュニティが形成されたことにより・・・

○参加している子どもたちに成長が見られた

- ・活発に意見交換をするようになった
- ・自主性やリーダーシップ、フォロワーシップが見られるようになった
- ・仲間の競技能力や年齢に応じた適切なサポートを心掛けるようになった

○保護者同士のつながりが生まれた

- ・下肢障がいのある子を持つ保護者同士が情報交換をできる場となった